



CITY OF NAGASAKI

「原水爆禁止 2019 年世界大会」が開催されるにあたり、長崎市民を代表してメッセージをお送りします。

皆様におかれましては、核兵器の全面禁止を世界に訴えた第 1 回以来、長きにわたり大会を開催されていることに、心から敬意を表します。

1945 年 8 月 9 日午前 11 時 2 分、長崎の街は一発の原子爆弾により、一瞬にして壊滅的な被害を受けました。すさまじい爆風と熱線により 7 万 4 千人の尊い命が奪われ、7 万 5 千人が負傷しました。

かろうじて生き残った人々も、心と身体に癒すことのできない深い傷を負い、今もなお、放射線による後障害に苦しんでいます。

その惨禍を経験した被爆者の方々をはじめとする長崎市民は「原爆による悲惨な体験を世界中の誰にもさせてはならない」と決意し、「長崎を最後の被爆地に」という切実な思いから、「核兵器のない世界」の実現を訴え続けてきました。

来年は被爆から 75 年という節目の年を迎えます。

しかし、現在、世界には今も約 14,000 発の核弾頭が存在し、核兵器を巡る国際情勢は、かつて例を見ないほどの危機的状況となっています。このような時こそ、私達市民社会が力を合わせ、一日も早い核兵器のない世界の実現に向けて、声を上げていかなければなりません。

今回、「核兵器のない平和で公正な世界のために」をテーマとする「原水爆禁止 2019 年世界大会」にご参加の皆様は、まさに、ご自分たちが取り組むことのできる第一歩を踏み出された方々です。

皆さんの一つひとつの小さな行動がたくさん集まって大きな流れをつくり、平和へとつながっていきます。これからも、核兵器のない世界をめざしてともに歩み続ける、力強く、大切な仲間として、長崎市民とともに一緒に平和の輪を広げていきましょう。

最後に、「原水爆禁止 2019 年世界大会」のご成功と、皆様の今後ますますのご健勝とご多幸をお祈りいたします。

令和元年 8 月

長崎市長 田上 富久

